

令和5年度 京都乙訓普及センター 普及指導計画概要一覧表

普及計画課題		普及指導対象	普及指導事項	内 容
重点計画	課題名：担い手の定着支援と経営向上への支援 【人・組織】	新規就農者 (概ね就農5年目までの農業者：経営開始型受給者を含む) 4名 農業基礎講座受講生10名程度	新規就農者の営農継続に向けた支援	新規就農者が自立的な経営を行い、生業として営農を継続できるよう支援する。
		経営力アップを目指す農業者 (概ね就農5年以上の農業者：経営開始型修了者を含む) 2名	経営力アップを目指す農業者への個別支援	経営力アップを目指す農業者が、経営安定に向けた課題に取り組み、地域の担い手として経営を改善できるよう支援する。
	課題名：新たな特産品目の生産振興とスマート農業技術の活用による安定生産 【もの・販路】	京おくら出荷部会 (伏見区洛南、淀、羽東師、西京区大原野、大山崎町・17戸)	京おくら出荷部会の生産技術の向上	生産技術の向上等による販売額の増加や新規生産者の加入促進による部会活動の活発化を支援する。
		西京区大原野イチゴ生産者2戸	環境測定装置を活用したイチゴ栽培の向上	環境測定データを活用したイチゴの生産安定を支援する。
	課題名：京式部及び特別栽培米の安定生産と米の緊急課題対策 【もの・販路】	令和5年度祝2号現地試作農家：4戸	祝2号の導入に係る現地試作の支援	(酒米) 祝2号の現地試作と出荷量の安定確保を支援する。
		特別栽培米重点農家9戸 (左京区4戸、右京区5戸) 嵯峨地域農場づくり協議会13戸 管内水稲重点農家14戸 (左京区5戸、右京区3戸、西京区2戸、伏見区2戸、長岡京市2戸)	使用資材や施肥方法の変更等による高温障害対策技術の検討	これまでの取組みで得られた栽培・品質分析データを踏まえ、各自のほ場に必要な高温障害対策技術(※1)について理解を深め、対策を実施することで、高温障害を軽減し安定した収量・品質が確保できるよう支援する。 <高温障害対策技術(※1)の具体例> ①高温時のかけ流し灌漑、②出穂期前後の水管理(中干し後から出穂期までの間断灌漑)、③早期落水防止、④分施など
個別計画				

計 画 課 題		対 象	内 容
調査研究計画	オクラの収量性や作業性向上を目指した低木栽培	J A 京都中央 京おくら出荷部会17戸	現行のオクラの栽培方法では、9月以降の収穫量と品質が不安定になる傾向がみられるため、播種期(4月・6月)、播種量(3粒・4粒)及び株間(30cm・50cm)の組合せを変えてオクラの低木栽培を試行し、草丈及び収穫量等との比較調査から収量性や作業性の向上を検討する。
	祝2号の現地適応性の確認	祝2号現地試作農家4戸 (京都市伏見区向島2戸、京都市右京区越畑2戸)	令和5年度に管内で初めて祝2号の現地試作が行われるため、実際の栽培状況(作業内容等)を把握しながら、生育調査や品質分析等を行い、祝2号の安定栽培に向けて現地適応性を確認する。
	イネ稲こうじ病に対する防除農薬と転炉スラグの併用効果の確認	京都市右京区京北 ヒノヒカリ採種農家5戸+1組織	水稲採種ほ場においてイネ稲こうじ病の発生が問題となっており、現行の農薬単体の防除では効果が低いため、国(農研機構)の試験事例を参考に、薬剤と転炉スラグの併用による防除体系を試行し防除効果を検討する。
	地域の未利用資源(公共施設の落葉)を活用した落葉マルチに係る実用性の検討	京都市右京区西京極 野菜生産者10戸	都市部の農家から、SDGsや資材価格高騰対策の実践として、地域の未利用資源(公共施設の樹木から出る落葉)を農業に有効利用するための技術指導が求められており、落葉を有機物マルチとして使用した際の効果や病害虫発生などの問題を調査し、実用性を検討する。
	赤しその省力栽培技術に係る実用性の検討	京都市左京区大原 赤しそ栽培農家37戸(しば漬事業者5戸)	左京区大原の赤しそ栽培では、高齢化や人手不足から省力化が求められており、最も労力のかかる育苗期間における除草、間引き及び定植を省力化するため、セルトレイ育苗と移植器具による定植を試行し、実用性を検討する。